

聖霊降臨日

2020年5月31日

## 「全体の益」となるための聖霊の恵み



日本聖公会東京教区  
東京聖三一教会

聖霊降臨日

2020年5月31日

## 「全体の益」となるための聖霊の恵み

司祭 シモン 林永寅

今日、私たちは聖霊降臨日を迎えました。いつもの年なら、教会創立を記念し、共に聖餐式を捧げ、互いに祝い交わりを持つことができますが、それができない現実が大変残念です。共に集まることはできませんが聖書のみ言葉を通して恵みを得られることは信仰者の喜びに間違いありません。共に集まり礼拝を捧げることができなくても、み言葉を身近に感じながら暮らすことには、神様は大きな恵みを持って報いでくださるでしょう。

さて、聖霊降臨とは何を意味するのでしょうか。教会の伝統的な教えによれば、聖霊降臨は、イエス様の復活によって信仰者が生まれ変わり、その生まれ変わった人生を通して得られる信仰の結実を象徴的に表現するものです。けれども私は、ここにもう一つの意味をつけ加えたいと思います。それは、聖霊降臨は、「移り変わる環境の中で、神様のみ旨に従う新しい生き方を示してくれる出来事でもある」ということです。これは、聖霊は真理を悟らせてくれる方であり、弁護者であるという聖書のみ言葉を通して理解することもできるでしょう。

イエス様がこの世にいらっしゃった出来事も、移り変わる環境の中で新たな姿をもって生きる方法を教えてくださいのためでもあります。これをもう少し考えてみましょう。神様が律法を与えてくださったのはエジプトからの脱出の後のことでした。神様より律法を預かったイスラエルの民は、律法通りに生きていこうとしました。歳月の移り変わりに伴って人生

の環境も変わりました。律法通りに生きていくことが難しくなりました。けれどもユダヤ人は律法に従って生きていかなければならないと考えていました。その結果、人生と信仰が歪められてしまいました。自分を主張したり、他人の過ちを指摘することが日常茶飯事になりました。それでイエス様は律法より神様のみ旨、律法のもともとの意味に従う人生を生きなければならぬと力説なさいました。「天の国が近づいた」というみ言葉は、移り変わる環境に従い新たな人生を生きなければならぬという意味にもなりました。そして聖霊降臨の出来事は、これまで見たことのないことを通して、これからは今までと異なる新たな人生が開かれるということを示す出来事でもありました。

今日ご一緒に読んだ使徒言行録には、初代教会で起きた聖霊降臨の出来事について3つの特徴が記されています。一つ目は激しい風が吹き荒れる音が家中に響いたということ、二番目は炎のような舌が現れ、一人一人の上にとどまったということ、三番目は一同が聖霊に満たされ、ほかの国々の言葉で話したということです。このような出来事は理解し難いです。しかし教会の伝統的な教えはこの出来事の象徴的な意味を伝えます。まず、激しい風が吹いたということは、新しい変化を意味します。そして炎のような舌はみ言葉を象徴します。弟子たちにも言葉の恵みが与えられたということです。そして彼らがほかの国々の言葉を話したというのは、彼らが悟ったみ言葉を世の中に伝えるようになったということの意味します。当時エルサレムには外国に住んでいるユダヤ人がたくさん来ていました。彼らはイスラエルの言葉がわかりませんでした。しかし信徒たちに聖霊が降ってほかのユダヤ人が理解できる外国語で福音を伝えることができました。ですからこれは、聖霊を通して新しい変化が起こり、神様のみ言葉が新しい方法で伝えられるようになった出来事です。

この出来事が信徒たちにとってどれほど大きな影響を及ぼしたからなのか、その後信徒たちは共同体生活を始めるのでした。それは、自分の「すべての物を共有にし、おのおのの必要に応じて、それを分け

あい」(使徒 2:44-45)、今までとは全く異なる信仰生活でした。そして彼らは、「使徒の教え、相互の交わり、パンをさくこと、祈ることに熱心でありました。」(使徒 2:42) このような新たにされた人生は、福音がイスラエルを越え、全世界に広げられる力強い動力になりました。

聖霊降臨日を迎え、私たちも今日の現実、つまりコロナウイルスのパンデミックという状況の中に、どのような考えと人生が神様のみ旨に従うことになるのか、もう一度考えてみる必要があります。果たして私たちが直面している現実とはどんな変化を求めているのでしょうか。もちろん初代教会の信仰者たちの人生だけが正解ではないでしょう。けれども残念なことに、私たちはこのような質問に簡単に答えを見つけることができません。それは、今は何より心を合わせて当面の現実を乗り越えていくことが一番重要なことであるからでもあります。

けれども、明らかになっていることもあります。それは、安定してほしいという私たちの願いとは異なり、この世の中はいつも移り変わっているし、神様と共に生きる人生とはその変化の中で共にする過程であるということです。そしてその変化の中にも生まれ変わるための私たちの努力が必要であるということです。私たちはそれを、復活なさったイエス様が弟子たちに聖霊を与えてくださる場面から分かります。イエス様はその時、「息をふきかけながら」聖霊を与えてくださいました。その姿は天地創造の時、神様が人を形づくり、息を吹きかけてくださる時の姿と同じです。なので、イエス様が弟子たちに聖霊を与えて下さった出来事は、新しく生まれ変わって、神様がこの世を創造なさった目的通りに生きていきなさいということをお教えるメッセージでした。移り変わる環境の中で神様のみ旨に従い、新しく生まれ変わって生きていくためのメッセージなのです。

今日、私たちがご一緒に読んだコリント書には、移り変わりの多いこの世の中に何を大事に考えるべきかについてのみ言葉が紹介されています。ここには先ず 7 つの聖霊の恵みのことが記されています。これは、神様は人々によって異なる恵み、異なる才能を与えてくださるとい

う意味です。ところで、私たちが注目すべきなのは、神様がこの恵みをおののけに与えてくださった目的です。それは、「全体の益」のためです。個人の満足や名誉ではなく、全体の益、すなわち神様のみ業のためです。

したがって、私たちは今日の現実を通して、「全体の益」のために何ができるのかを考えてみる必要があります。何よりもまず挙げられるのは、コロナウイルスの状況の対応に協力することでしょう。それは、自粛生活をちゃんと守ること、指針通り物理的距離を置くこと、共に応援し励ますことから始まります。そして、自分だけでなく、隣人、もっと広くは隣の国々と協力し、困難を乗り越えるための努力が必要です。けれども残念なことに米国のような大きな国は葛藤と戦争ムードを鼓吹させています。もしかしたら、戦争を通して自分たちの経済危機を乗り越えていこうと考えているかもしれません。アメリカ・ファーストの極端な姿であると言わざるを得ません。世界的な危機の中で「全体の益」を考えると、むしろ国際的な軍備縮小が必要なのではないでしょうか。

復活なさったイエス様が弟子たちに聖霊を与えてくださる時このようにおっしゃいました。

「あなたがたに平和があるように!」

そして、「父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす」とおっしゃいました。このみ言葉は、コロナウイルスの状況下で信仰者としての社会的な役割を応援してくださるみ言葉であり、コロナウイルス以後の世の中の平和のための努力を励ましてくださるみ言葉であるかもしれません。信仰者の目で現実を直視し、トランプ大統領のように神様のみ旨と違う道を歩いている時は「いな」と言う必要もあるでしょう。私たちが迎えているこの現実がもしかしたら、平和についてより深く考え、神様のみ旨をより深く考え、実践できる良い機会かもしれません。

この一週、聖霊の恵みの中に皆さんの魂と体が健康で、いつも喜び溢れますように心よりお祈りいたします。